

株主のみなさまへ

第55期

中間報告書

(平成19年4月1日～平成19年9月30日)



「お米」のおいしさ創造企業——
岩塚製菓株式会社



株主の皆様へ



代表取締役社長

榎 春夫

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、ここに当社第55期中間期（平成19年4月1日から平成19年9月30日まで）の業績につきましてご報告申し上げます。

当社は、日本の伝統ある食文化を世界に広め、人々に喜びと豊かさを提供することを使命としております。おいしさとふれあったお客様の笑顔とともに「お米」のおいしさ創造企業として歩み続けて、本年7月29日に創業60周年を迎えることができました。これもひとえに、皆様のご愛顧の賜物であると心より御礼申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年12月

おいしさでNo.1でありたい、新鮮さでNo.1でありたい、

おいしさにこだわる私たち自身がNo.1でありたい。

私たちは、世界中の人々においしさの笑顔をお届けしてまいります。



行動規範

- 1 安全で良品質な米菓を消費者に提供します。
- 2 顧客の満足と安心が得られるように最大限の努力をします。
- 3 法令を遵守し、社会倫理に適合した企業活動に努めます。
- 4 環境問題に積極的、自主的に取り組みます。
- 5 良き「企業市民」として積極的に社会貢献活動を行います。
- 6 安全で働きやすい環境の確保に努めます。

事業の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用者所得の緩やかな増加に伴う個人消費の底堅い推移の一方で、高水準の企業収益を背景に設備投資の増加や中国をはじめとする東アジアあるいはEUへの輸出の増加により、景気は緩やかな拡大傾向にありました。

米菓業界におきましては、食品業界におけるデフレ傾向の解消とは対照的に、成熟した市場内における過剰な価格競争による低価格化が継続しています。市場規模は、継続的な販売強化やリニューアルなどの積極策のほか、少子高齢化などの社会環境の変化により、強含みの横ばいで推移しました。

このような状況の中、当社はお陰様で創業60周年を迎えることができ、長年培ってきた経験と技術に加え、R&D・Mセンターにおけるおいしさの数値化の検証を踏まえた開発力の強化に取り組みました。また、R&D・Mセンターにおいて研究・開発された、信州産味噌と深谷ねぎを使用したうす焼の「ねぎ味噌せんべい」、北海道十勝平野の農家と契約栽培した大袖振大豆をふんだんに練り込んだ「豆堅せんべい」「大まめ餅」などの新商品を発売するとともに、核家族世帯を想定した量と価格の設定等により、市場の活性化を図ってまいりました。

以上の結果、市場シェアの拡大に向けて開発力の強化や販売促進に積極的な投資をしたことにより、売上高は95億63百万円（前年同期比0.3%増）となりました。利益面につきましては、生産ラインの改

善などにより、コスト削減に努めましたが、高騰する原材料費や激化する競争の中で増加する販売促進費用の負担増を吸収するまでには至らず、営業損失が1億27百万円（前年同期営業利益70百万円）、経常利益は42百万円（同経常利益2億27百万円）、中間純損失が24百万円（同中間純利益1億9百万円）となりました。

<通期の見通し>

今後の見通しにつきましては、企業の設備投資や雇用者所得、生産などの後押しにより、好調な企業部門から家計部門への波及が国内民間需要を促し、緩やかながらも息の長い景気拡大を続けるものと思われま。しかしながら、拡大を続けながらも米国経済の減速が懸念される海外経済やサブプライム住宅ローンなどの国際金融資本市場の変動が及ぼす先行きの不透明感がみられます。また、原油価格の高騰による燃料費、包装材料等のさらなる高騰が予想され、依然として厳しい経営環境が継続すると思われま。

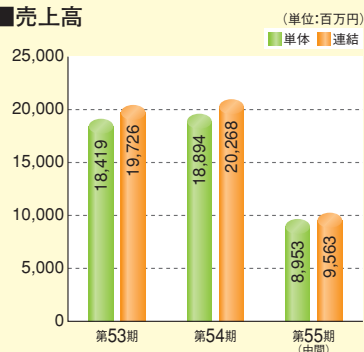
食品業界におきましては、食の安全・安心に対する消費者の関心が一段と強まってきており、企業の社会的責任として現状に満足することのない品質保証体制が求められております。また、食育などにみられる健康志向への高まりもみせております。

こうした情勢下において、当社グループでは、IPS（岩塚プロダクションシステム）のさらなる改善により、品質第一主義のもと鮮度No.1による販売戦略を積極的に推進し、他社との差別優位化を図ってまいります。

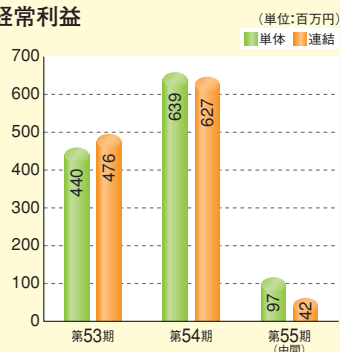
財務ハイライト

区 分 (連結)	単位	第53期 (17/4~18/3)	第54期 (18/4~19/3)	第53期中間 (17/4~17/9)	第54期中間 (18/4~18/9)	第55期中間 (19/4~19/9)
売 上 高	百万円	19,726	20,268	9,326	9,531	9,563
経 常 利 益	百万円	476	627	77	227	42
中間 (当期) 純利益	百万円	240	329	23	109	△24
総 資 産	百万円	23,148	29,035	19,963	24,982	14,988
純 資 産	百万円	13,683	16,507	12,085	15,014	8,254
1株当たり中間(当期)純利益	円	38.92	55.81	4.04	18.51	△4.35
1株当たり純資産額	円	2,306.82	2,926.58	2,037.38	2,524.34	1,459.97

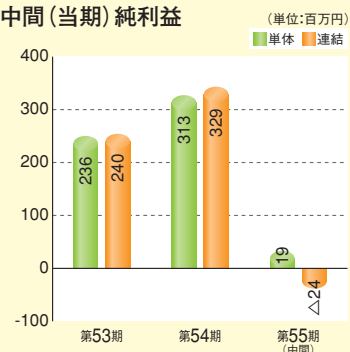
■売上高



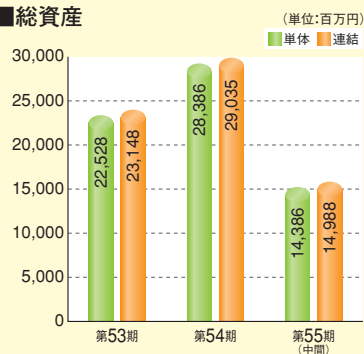
■経常利益



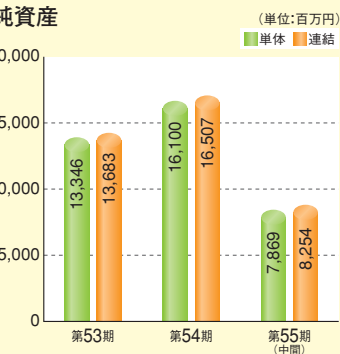
■中間(当期)純利益



■総資産



■純資産



トピックス

引き継がれる創業の精神

今年、岩塚製菓は創業60周年を迎えました。

厳選されたお米を、職人の技で丹精込めて焼き上げるその心は、
今なお岩塚製菓の中に脈々と受け継がれています。



いい材料が味をつくる。
それ以上の味と品質はつくり方がつくる。

商品案内



岩塚の黒豆せんべい
黒豆をたっぷり練りこんだ岩塚自慢のおせんべいです。堅めの食感と黒豆の香ばしさがたまらない逸品です。デザインも新たにリニューアルいたしました。



大まめ餅

北海道十勝平野で契約栽培した「大袖振大豆」をたっぷり練りこんだ大豆の風味豊かなさっくりとした豆もちです。岩塚のこだわりの逸品です。



新潟ぬれせんべい

しっとりやわらかな食感が味わえるぬれせんべいです。甘さとしょっぱさのバランスが取れた甘口醤油たれがくせになる味わいです。



新潟ぬれおかき

たまり醤油を使用した特製のたれを、おかきの中までしっかりと染み込ませ、もちもちとした食感を実現しました。



新潟ひとつまみ海老黒胡椒

カリッと食べやすいスティックタイプの揚げせんべい。海老の風味とピリッと効いた黒胡椒の味わいはつつい手が出る美味しさです。



味しらべ

27年間変わらぬご愛顧をいただいているベストセラー商品です。

安全・安心なおいしさづくり

お客様へ安全で、安心な商品をお届けするために、法定の品質基準に加え、独自の品質管理体制を整備し、日々の品質管理を徹底しています。生産者の顔が見える契約栽培やトレーサビリティ体制により、高品質で確かな原料、素材を使用し、商品を生産しています。



経時による品質の変化を分析

環境問題への取り組み

ISO14001の全社展開

平成16年に沢下条工場にて環境国際規格ISO14001を認証取得し、本社、飯塚工場、中沢工場での取得を進めています。

クリーン・エネルギー

無公害でクリーンなエネルギーの太陽光複合コージェネシステムと、主力工場においては重油・LPGから天然ガスに転換し、環境に配慮した製造ラインを構築しています。

チーム・マイナス6%

環境省の提唱する「チーム・マイナス6%」に参加し、身近なところからできる環境保護対策を実施しています。



みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%

「田んぼオーナー体験」キャンペーン



「田んぼオーナー体験」キャンペーンは、「お米」作りを体験することで、「子どもたちが食の大切さについて学べる場を提供したい」と取り組み始めて4年目を迎えました。5月19日、新潟県内の親子11組30名様を迎えて、田植え体験を開催しました。9月22日には、さらに募集人数を増やし親子25組51名様を迎えて、稲刈り体験を開催しました。泥んこになりながらも楽しく、汗だくになりながら一生懸命に田植え・稲刈りをする子どもたちの顔からは、お米・おせんべい・食の大切さについて、何かを感じ取った表情を見ることができました。



連結財務諸表

中間連結貸借対照表(要旨)

(単位：千円)

科 目	当中間期 平成19年9月30日現在	前中間期 平成18年9月30日現在	科 目	当中間期 平成19年9月30日現在	前中間期 平成18年9月30日現在
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	4,086,705	3,962,198	流動負債	4,871,811	3,452,196
固定資産	10,901,627	21,020,018	固定負債	1,862,467	6,515,870
有形固定資産	7,876,479	7,868,890	負債合計	6,734,279	9,968,067
無形固定資産	51,701	18,763	(純資産の部)		
投資その他の資産	2,973,445	13,132,364	株主資本	8,004,730	8,452,680
資産合計	14,988,333	24,982,216	資本金	1,634,750	1,634,750
			資本剰余金	1,859,250	1,859,250
			利益剰余金	5,126,527	5,016,179
			自己株式	△ 615,797	△ 57,499
			評価・換算差額等	210,119	6,521,199
			その他有価証券評価差額金	168,512	6,525,342
			為替換算調整勘定	41,606	△ 4,143
			少数株主持分	39,204	40,269
			純資産合計	8,254,054	15,014,149
			負債純資産合計	14,988,333	24,982,216

中間連結損益計算書(要旨)

(単位：千円)

科 目	当中間期	前中間期
	平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで
売上高	9,563,375	9,531,549
売上原価	6,341,958	6,320,932
売上総利益	3,221,417	3,210,616
販売費及び一般管理費	3,348,945	3,140,086
営業利益又は営業損失(△)	△ 127,528	70,530
営業外収益	198,851	175,709
営業外費用	29,244	18,543
経常利益	42,079	227,696
特別利益	34,501	8,516
特別損失	41,642	19,214
税金等調整前中間純利益	34,937	216,998
法人税、住民税及び事業税	17,392	100,884
法人税等調整額	45,553	7,159
少数株主損失	△ 3,542	△ 838
中間純利益又は中間純損失(△)	△ 24,465	109,793

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：千円)

科 目	当中間期	前中間期
	平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	591,354	878,667
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 284,080	△ 611,709
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 361,156	△ 336,671
現金及び現金同等物に係る換算差額	130	△ 1,159
現金及び現金同等物の増減額	△ 53,751	△ 70,872
現金及び現金同等物の期首残高	641,193	674,849
現金及び現金同等物の中間期末残高	587,441	603,977

中間連結株主資本等変動計算書

当中間期(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

(単位：千円)

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純資 産計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その 他有 価証 券 評 価 差 額 金	為 替 換 算 勘 定	評価・換算 差額等合計		
平成19年3月31日 残高	1,634,750	1,859,250	5,235,395	△ 615,649	8,113,745	8,334,677	18,866	8,353,543	40,220	16,507,509
中間連結会計期間中の変動額										
剰余金の配当			△ 84,401		△ 84,401					△ 84,401
中間純損失			△ 24,465		△ 24,465					△ 24,465
自己株式の取得				△ 147	△ 147					△ 147
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)						△ 8,166,164	22,740	△ 8,143,423	△ 1,016	△ 8,144,440
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	△ 108,867	△ 147	△ 109,015	△ 8,166,164	22,740	△ 8,143,423	△ 1,016	△ 8,253,455
平成19年9月30日 残高	1,634,750	1,859,250	5,126,527	△ 615,797	8,004,730	168,512	41,606	210,119	39,204	8,254,054

個別財務諸表

中間貸借対照表(要旨)

(単位：千円)

科 目	当中間期	前中間期
	平成19年9月30日現在	平成18年9月30日現在
(資産の部)		
流動資産	3,440,440	3,325,011
固定資産	10,946,430	21,084,825
資産合計	14,386,871	24,409,836
(負債の部)		
流動負債	4,791,382	3,362,202
固定負債	1,725,844	6,384,351
負債合計	6,517,226	9,746,554
(純資産の部)		
株主資本	7,701,132	8,137,939
資本金	1,634,750	1,634,750
資本剰余金	1,859,250	1,859,250
利益剰余金	4,822,929	4,701,439
自己株式	△ 615,797	△ 57,499
評価・換算差額等	168,512	6,525,342
その他有価証券評価差額金	168,512	6,525,342
純資産合計	7,869,644	14,663,282
負債純資産合計	14,386,871	24,409,836

中間損益計算書(要旨)

(単位：千円)

科 目	当中間期	前中間期
	平成19年4月1日から平成19年9月30日まで	平成18年4月1日から平成18年9月30日まで
売上高	8,953,014	8,933,988
売上原価	6,186,201	6,199,881
売上総利益	2,766,812	2,734,107
販売費及び一般管理費	2,849,040	2,655,347
営業利益又は営業損失(△)	△ 82,228	78,759
営業外収益	201,752	176,837
営業外費用	22,214	10,850
経常利益	97,309	244,746
特別利益	30,619	8,429
特別損失	41,642	19,155
税引前中間純利益	86,286	234,020
法人税、住民税及び事業税	12,818	94,664
法人税等調整額	53,610	11,839
中間純利益	19,858	127,517

中間株主資本等変動計算書

当中間期(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

(単位：千円)

	株主資本							評価・換算差額等		純 資 産 計		
	資 本 金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	株主資本計	その他有価証券評価差額金		評価・換算差額等合計	
	資 本 金	資 本 金	資 本 金	利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金	
平成19年3月31日 残高	1,634,750	1,859,250	1,859,250	101,437	4,435,000	351,035	4,887,472	△ 615,649	7,765,823	8,334,677	8,334,677	16,100,500
中間会計期間中の変動額												
別途積立金の積立					250,000	△ 250,000	—		—			—
剰余金の配当						△ 84,401	△ 84,401		△ 84,401			△ 84,401
中間純利益						19,858	19,858		19,858			19,858
自己株式の取得								△ 147	△ 147			△ 147
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額(純額)										△ 8,166,164	△ 8,166,164	△ 8,166,164
中間会計期間中の変動額合計					250,000	△ 314,543	△ 64,543	△ 147	△ 64,691	△ 8,166,164	△ 8,166,164	△ 8,230,856
平成19年9月30日 残高	1,634,750	1,859,250	1,859,250	101,437	4,685,000	36,491	4,822,929	△ 615,797	7,701,132	168,512	168,512	7,869,644

株主優待制度

当社では、日頃のご厚情に感謝し、当社株式を100株以上お持ちの株主様に当社製品を贈呈いたします。9月30日現在の株主様には12月に、3月31日現在の株主様には6月にご送付いたします。

100株以上の株主様 1,000円相当

500株以上の株主様 2,000円相当

1,000株以上の株主様 5,000円相当

* 2,000株以上の株主様 5,000円相当

* 2,000株以上お持ちの9月30日現在の株主様には翌年3月、3月31日現在の株主様には9月にも贈呈いたします。



株券電子化のご案内

2009(平成21)年1月*以降、上場会社の株券は電子化され「無効」となります。

*実施目標日

株券をご自宅や貸金庫等のお手元にお持ちの場合は、必ずご確認ください。

電子化されるまでの手続き

1. 証券会社を通じて株券を証券保管振替機構に預託されている場合

株主の権利は自動的に確保されますので、お手続きの必要はありません。

2. ご本人名義の株券がお手元にある場合

株主としての権利は自動的に確保されますが、株式の売買が自由にできなくなります。

最寄りの証券会社にご相談ください。

3. ご本人名義でない株券がお手元にある場合

他人名義として登録されているため、ご本人様の株主としての権利を失う可能性があります。

名義書換のお手続きのため、最寄の証券会社にご相談ください。

株式会社データ (平成19年9月30日現在)

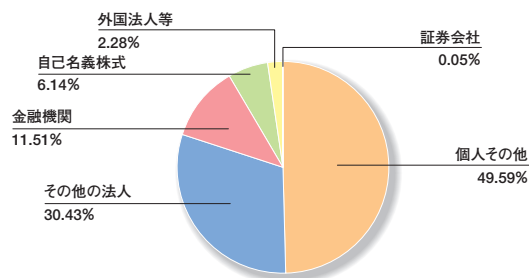
発行可能株式総数	23,980,000株
発行済株式の総数	5,995,000株
株主数	4,620名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)
株式会社紀文食品	305,000
岩塚製菓共栄会	292,600
株式会社北越銀行	280,000
平石毅一	264,346
榎政男	235,805
株式会社第四銀行	200,000
岩塚製菓従業員持株会	181,000
榎キク	162,619
三瀧商事株式会社	105,500
株式会社魚沼運輸	105,000

注) 上記「大株主(上位10名)」には、当社所有の自己株式368,281株を含めておりません。

所有者別の構成比(株式数比率)



子会社・関連会社

- 株式会社瑞花
- 株式会社新潟味のれん本舗
- 株式会社越後抄
- 瀋陽岩旺米粉製造有限公司
- 旺旺・ジャパン株式会社

会社の概要 (平成19年9月30日現在)

商号	岩塚製菓株式会社
英文名称	IWATSUKA CONFECTIONERY CO., LTD.
代表者	代表取締役社長 榎 春夫
主要な事業内容	米菓の製造販売
本社所在地	新潟県長岡市浦9750番地
設立	昭和29年4月27日
資本金	16億3,475万円
従業員数	801名 他に、準社員・嘱託及びパートタイマーが153名おります。
主要製品名	岩塚の黒豆せんべい・新潟ぬれおかき・味しらべ・新潟ひとつまみ海老黒胡椒・大袖振豆もち・新潟ぬれせんべい・きなこ餅 他
主要な事業所	本社、R&D・Mセンター 工場：飯塚、沢下条(第一・第二・第三・第四)、中沢、千歳、長岡 支店：札幌・仙台・新潟・東京東・東京西・名古屋・大阪・西日本

取締役及び監査役 (平成19年9月30日現在)

代表取締役社長	榎 春夫
取締役	中 静 幸 治
取締役	丹 羽 文 夫
取締役	郷 芳 夫
取締役	阿 部 雅 栄
常勤監査役	川 輝 夫
監査役	平 石 毅 一
監査役	佐 野 榮 日出

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日(中間配当をおこなう場合)

株式事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号
	みずほ信託銀行株式会社
	本店証券代行部
(お問合せ先)	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)
同 取 次 所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

単元株式数 100株
公告の方法 電子公告により、当社ホームページ
(<http://www.iwatsukaseika.co.jp/>)に掲載いたします。
なお、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

